

愛知大学東亜同文書院大学記念センター国際シンポジウム

テーマ「辛亥革命・孫文・東亜同文会」

日 時 2011年11月12日(土)10時30分～17時30分

場 所 愛知大学豊橋校舎記念会館 3 階小講堂

愛知大学東亜同文書院大学記念センターは、2006年から5年間、文部科学省の学術研究高度化推進事業に採択され、愛知大学の前身校であり、1901年に上海に設立された東亜同文書院大学をめぐる国際シンポジウムを2007年、2008年に行ってきた。辛亥革命百周年にあたる2011年は、『辛亥革命・孫文・東亜同文会』についての国際シンポジウムを実施し、それぞれの歴史的意義と現代的な意味を多面的に検討することになった。

佐藤 本日は、本学東亜同文書院大学記念センター主催の国際シンポジウムを開催いたしましたところ、このように多くの方にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。まずは冒頭にお礼のご挨拶を申し上げます。

この11月12日という日は確か孫文の生誕の日でございます。今年は辛亥革命100年を記念して日本の各地でもいろんな催し物が行なわれているようでございます。生誕の日で開催されている他の企画があるかどうかは承知をしておりますけれども、1866年にお生まれになったというふうに記憶しておりますので、ちょうど145回目の生誕の日ではないかと思っております。この記念すべき日に本学の東亜同文書院大学記念センターが主催するシンポジウムが開催されるということ、私自身は誠に意義深いと考えているところでございます。

さて孫文あるいは辛亥革命と言いますと、どうしても山田兄弟をおいて語ることはできないと思いますし、また山田兄弟ということになりますと、本学あるいは東亜同文書院と切り離しては考えることができないと思います。先ほど申し上げましたように、今年は日本各地でさまざまな辛亥革命100年に因んだ企画が開催されております。これから開催されるものでは、私が記憶しているところでは確か来週神奈川で開催される企画があったと思います。それから12月の初めになりますと、これは少し大がかりな企画でございます

けれども、東大の駒場キャンパス、さらにはそれを引き継ぐ形で神戸大学でもシンポジウムが開催されると聞いております。そういう一連の他の企画とは別に、やはり本学あるいは東亜同文書院ならではのものが本日の企画ではないかというふうに、大変期待をしているところでございます。

実は昨日たまたま神戸に所用がございまして、午前中の所用と午後の所用、このあいだは昼休みとして予定をしていたんですけれども、はたと思い立ちまして、孫文記念館のほうにちょっと立ち寄らせていただきました。辛亥革命100年の記念展示会がちょうど開催されておりまして、そんなに長く時間をとることはできなかったんですけれども一通り見学させていただき、あらためて本学が所蔵し展示をしている資料の貴重さということを感じた次第でございます。本学の展示室は多くの方がご覧になっているかと思っておりますけれども、もしまだご覧になっていらっしゃらない方がおられれば、大学の旧本館のほうに、孫文あるいは辛亥革命に因んだ展示がなされておりますので、ぜひこの機会にご見学いただければと思います。

なかなか各地で開かれている企画の取りまとめをしていくことは難しい面があるかもしれませんが、先ほど申し上げましたように本学や東亜同文書院ならではの見地で、本日は学術的な貢献をいただけると期待をしておりますの

で、夕方までの長丁場になりますがぜひお楽しみいただければというふうに思っております。

それからこの機会に、すでに皆さん多くの方がご存じではないかと思いますが、東亜同文書院の関係で少し情報提供をさせていただきます。今年の7月だったと思いますが、岩波新書で『人間と国家』上下2冊が刊行されております。これは東京大学名誉教授の坂本義和先生がまとめられたものでございますけれども、実は坂本先生のお父さんが東亜同文書院の学生さんで、かつ卒業してから東亜同文書院で教鞭をとられ中華学生部担当の仕事もされていたということでございます。そのあたりが、息子さんがお父さんから聞いた話ということでエピソードを交えて書かれておりまして、私自身大変参考になりました。私の若かりし頃は坂本義和先生が書かれたものにずいぶん影響を受けましたので、そういう観点から7月に刊行された岩波新書を早速購入したんですが、まさに最初のところにお父さんのことが書かれているということは全然予想しておりませんでした。因みにその部分については、本学が所蔵しております写真が確か3枚ぐらい掲載されていたかと思えます。

もう1つは山田兄弟の出生の地であります青森県の弘前に、神戸出身の歯医者さんが広瀬歯科クリニックというのを開業しておられるんですが、でも、「広瀬院長の弘前ブログ」というのがございまして、そちらのほうに山田兄弟のことや東亜同文書院のことがだいぶ掲載をされています。全く私事なんですけれども、そのブログに愛知大学の今の学長は弘前出身であるということも書かれていて、同時にその広瀬院長先生の奥様に当たる方が私の親戚だというふうに書いてありました。全く心当たりが無かったんですけれども、調べてみたら確かに私の親戚でございまして、これも何かの縁なのかなと。少し具体的に申し上げますと、私の祖母の姉の孫に当たる人が広瀬院長の奥様になられているということでございました。私事に及んでしまいましたけれども、「広瀬院長のブログ」は弘前のことを中心

に書いていまして、山田兄弟のこととか東亜同文書院のことにも言及しておりますので、ぜひ参照していただければということで情報提供をさせていただきます。

改めまして本日このように多くの方にお集まりいただきましたことに感謝を申し上げますとともに、このシンポジウムが愛知大学ならではの、東亜同文書院ならではの切り口で学術的な貢献をされることを心から祈念申し上げまして、冒頭の挨拶とさせていただきます。本日はありがとうございます。

司会 ありがとうございます。では早速第1部に入りたいと思います。本日は都合6人の報告の方をお願いしております。長丁場になりますがぜひともお聞きいただければと思います。では一番最初に東京の電気通信大学の名誉教授で、辛亥革命研究を長年おやりになっていました藤井昇三先生にお話しいただきたいと思います。題しまして「辛亥革命と孫文一日中関係の転機―」でございます。では藤井先生、よろしく願いいたします。